

リハビリテーションの要として デイケアを発展させよう

日本デイケア学会 理事長 原 敬造
医療法人社団 原クリニック

はじめに

日本デイケア学会は平成8年に加藤正明先生が初代理事長に就任し発足しました。

精神疾患と高齢者、双方のデイケアを対象に、年次大会を全国各地で開催しており、デイケア実践に関する研究と相互学習を実施してきました。昨年度は第19回年次大会を東京都で開催したのにつき、今年度は第20回大会という節目の大会を大阪の地で開催いたします。

また昨年度は、かねてからの課題であった精神科リハビリテーション評価表を作成し、効果研究や予後調査への活用が期待されます。

「入院医療中心から地域生活中心へ」と、国の基本理念の実現にとって、精神科デイケアの果たす役割はこれまで以上に大きくなっています。また高齢者の分野においても、認知症を抱える方の地域ケアにとって重度認知症デイケアは欠かせません。

1. デイケアにはエビデンスがある

1) 精神科デイケアのリハビリテーション効果のエビデンス

当学会では、精神科リハビリテーション評価表を作成し、GAFとLASMIとの比較検討を行いました。リハビリテーション評価表の妥当性を検討し、妥当性ありとの結論を得ました。その評価表を用い、多施設で統合失調症患者の精神科デイケア利用前および利用後の評価を行いました。精神科デイケア利用前の総合得点は合計

で27.5点(50点満点)、デイケア利用後の総合得点は合計で38.2点と顕著な改善がみられました。対象になった患者の利用期間はまちまちで、利用期間の長短によらず精神科デイケアにはリハビリテーション効果があることが示されました。

2) デイケアの新規入院予防効果のエビデンス

当学会の調査で精神科デイケア参加前に入院歴がない方で、精神科デイケア参加後に新規に入院された方は9.1%と新規入院予防効果があることが示されました。このことから精神科デイケアを積極的に利用することで、新規の入院を抑止することが出来、外来治療の幅を広げ、地域生活中心の医療を実現できる可能性が示されました。

3) 精神科デイケアの再入院防止効果のエビデンス

当学会の調査で82.5%の方が精神科デイケア利用前に入院経験があり、入院歴のある方のデイケア利用後の再入院率は48.9%で再入院を明らかに予防していることが示されました。

2. 学会の活動

先にデイケアのエビデンスを示しました。これらを支えているのが、デイケアの理念であり、スタッフであり、プログラムです。

精神に障害を持つ方のリハビリテーションの要としてデイケアを発展させていく学会になるよう研鑽を重ねていきたいと思います。

デイケア学会第20回年次大会（大阪大会）に 来たってや！！

日本デイケア学会第20回年次大会 大会長 三家 英明
医療法人 三家クリニック

いよいよ、日本デイケア学会第20回年次大会大阪大会の開催まで、あと3か月余りとなりました。デイケアの現状とこれからを考える時、時期的にも極めて重要な意味を持つ本大会を大阪でやらせていただくことを光栄に思うとともに、大きな責任を感じております。現在、なんやかんやと言いながらも、ノリの良い人たちに支えられながら、運営委員会やコア会議を重ね、プログラム内容を決定し、また実行委員も募集を終えて開催に向けた準備を進めているところです。近畿地区ではじめての開催ですが、宣伝の甲斐もあって、入会者も増えてきており、周囲もにぎやかになってきている様子でありがたく思っています。

さて、第20回大会大阪大会の概要ですが、特別講演には長年イタリアの地域精神保健の研究をしてこられ、昨年「プシコ ナウティカ」(世界思想社)を出版された松嶋健先生にご登壇いただくことにしました。イタリアの地域精神保健医療の実情だけではなく、その底流にある文化風土にも精通されている松嶋氏による「人間する」ことを学ぶ～イタリアの地域精神保健が問うものと題しての講演は、私たちの所業を問い直す機会になることと思います。教育講演は4人の先生方をお願いしました。池淵恵美先生からは「デイケアの力」とデイケア学会にふさわしい演題をいただいています。関心の高い就労支援は、地元大阪から熱血漢田川精二先生の「就労支援から見えてきたもの」、しっかり取り組んでいくことが求められている発達障害については、長年発達障害のデイケアを実践してこられた加藤進昌先生をお願いして「成人発達障害のデイケア - ショートケアプログラムの標準化に向けて-」と題する講演を、そして高齢者分野では今春読売認知症ケア賞功労賞を受賞された高橋幸男先生をお願いしました。

シンポジウムは、当初、全国の会員から持ち込み企画の

募集を予定していましたが、準備段階で地元大阪からの持ち込みが入り、目一杯の10本になってしまいました。どのシンポジウムも興味深く、また一般演題、ポスターも多く応募いただきましたので、2日間、どの会場に入るか戸惑われるのではないかと考えています。てんこ盛りのプログラム構成に加えて、どこも聞き逃せない内容が目白押しですので、仲間でご参加いただき、分担して聴いて報告し合っていただくのがよいように思います。

なお、今大会では、2日目に開催されるワークショップのプログラムのみに参加希望の当事者は参加費を1000円として来場していただくことにしました。ここでは、阪本病院の三好裕子先生のご尽力でべてるの家から向谷地生良さんはじめ当事者研究メンバーさんが来阪されるほか、就労支援出前講座、WRAP、ピアサポーター関連等が決まっており、どの会場もおおいに盛り上がることになりそうです。

2日目の午後には、市民公開講座を開催して夏苺郁子先生に「回復とはなにか・人を支援するとは ということか～当事者・家族・精神科医の3つの立場を経験した者として考える」と題してご講演いただくことにしております。

なお、今回は、例年大会終了後に設定されていた施設見学会は、開催日前日の22日に実施することとしました。どの施設もデイケア運営日ですので、施設利用者との交流の機会を持っていただきたいと考えました。また、この日の夕べには懇親会でピアノ演奏をお願いしている赤津スターノフ樹里亜さんのコンサートを寝屋川のアルカスホールにて開催します。施設見学された方、前日入りされる方のご来場をお待ちしています。

大阪大会に多数の方にご参加いただき、大会を盛り上げていただくとともに、多くの収穫を全国に持ち帰っていただくことを期待してやみません。

日本デイケア学会 第20回年次大会大阪大会のご案内

大会テーマ

**「つなごう 人に 地域に
明日に そして希望に！」**

大会長

三家 英明 (医療法人三家クリニック)

大会URL

<http://convention.jtbcom.co.jp/daycare20/>

Facebook

左記QRコードにてアクセスしてください。

※「日本デイケア学会第20回年次大会Facebook」でも検索可能。



(Facebook QRコード)

会期

2015年 10月23日 (金) ~ 10月24日 (土)

会場

大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)

〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51

学会主催研修会

年次大会終了後、研修会を実施いたします。

年次大会の参加とは別に、お申込みが必要となります。

※詳細はホームページにて順次掲載します。

お問合せ先：日本デイケア学会事務局

TEL: 03-3813-6368 FAX: 03-3813-6368

事前参加登録について

・登録期間 2015年4月20日(月)～8月31日(月)

(会員) 事前登録7,000円 当日登録8,000円

(一般) 事前登録8,000円 当日登録9,000円

その他、詳細につきましては、大会ホームページをご参照ください。

懇親会について

・日時：2015年10月23日(金) 18:00～20:00

・会場：リーガロイヤルホテル2階 桐の間

(〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68)

・参加費：5,000円 ※大会参加と一緒に申し込みください。

研修単位の
認定について

・本学会は日本精神神経学会専門医資格更新にかかるポイントの取得が

できます。また、日本作業療法士協会の生涯教育基礎ポイント2ポイントが
取得できます。

連絡先

大会事務局

〒572-0838 寝屋川市八坂町29-1

医療法人三家クリニック

「日本デイケア学会第20回年次大会大阪大会」事務局

運営事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田3丁目3-10 梅田ダイビル4階

株式会社JTBコミュニケーションズ コンベンション事業局内

「日本デイケア学会第20回年次大会大阪大会」運営事務局

TEL: 06-6348-1391 FAX: 06-6456-4105

E-mail: daycare20@jtbcom.co.jp

日本デイケア学会第20回年次大会大阪大会プログラム

【大会長講演】 生活の場でリカバリーを目指す ～つなぐ場としてのデイケアから学んできたこと～
三家 英明（医療法人 三家クリニック 院長）

【特別講演】 「人間する」ことを学ぶ～イタリアの地域精神保健が問うもの
松嶋 健（日本学術振興会特別研究員・国立民族学博物館外来研究員、
多摩美術大学芸術人類学研究所特別研究員）

【教育講演】 I デイケアの力
池淵 恵美（帝京大学医学部精神神経科学講座 主任教授・診療科長）
II 成人発達障害のデイケアーショートケアプログラムの標準化に向けてー
加藤 進昌（昭和大学発達障害医療研究所所長、
公益財団法人神経研究所（晴和病院） 理事長・研究所長）
III 認知症のBPSDのからくりとその対応
高橋 幸男（エスポアール出雲クリニック 理事長・院長）
IV 就労支援からみえてくるもの
田川 精二（NPO 法人 精神障害者就労支援ネットワーク 理事長）

【市民公開講座】 回復とはなにか・人を支援するとは どういうことか
～当事者・家族・精神科医の3つの立場を経験した者として考える
夏苺 郁子（医療法人社団 峻凌会 やきつべの径診療所）

【シンポジウム】 I さまざまなデイケア、そのエビデンス
II 居場所を問う～ケアにつながる場とは～
III 精神障がい者デイケアスポーツとリカバリー
IV リカバリーを達成するための包括的リハビリテーションプログラムとは
V デイケアの未来を語る
VI 重度認知症デイケアと家族支援
VII ピアサポートが切り拓く協働
ーピアサポーターと支援者のこれからの関係性ー
VIII デイケアから職場へ～一歩踏み込んだ就労支援のために～
IX 高次脳機能障害へのデイケアによる治療
X デイケア臨床の中に文化を視るー歴史性・関係性の観点からー

【ワークショップ】
I レッツ！当事者研究
II JSN 出前講座「やる気スイッチがオンになる就労支援プログラムとは？」
III ええやんグランプリ！＊めっちゃおもしろいプログラムありませ～＊
（近畿地区大会）
IV デイケアを中からみんなで盛り上げよう～利用者、スタッフの力をうまく
合わせたデイケアを作るには～
V なかまと作ろう WRAP!

【ランチョンセミナー】

【分科会（口述発表）】

【ポスター発表】

【施設見学会】 日時：10月22日（木）午後
※今回は見学だけではなく、各施設のデイケア活動に実際に参加して頂く予定です。

研修会へ参加してみませんか!

日本デイケア学会 研修委員長 坂井 一也
星城大学

精神保健医療福祉が入院中心から地域中心へ移行している中で、デイケアの役割が増大しています。デイケア施設、デイケアスタッフが増えています。デイケアスタッフに必要な基礎知識、技術などの教育は整備されていなく、各施設、各個人に任せられているのが現状です。また、病院附属のデイケアでは病棟との移動があり、スタッフは不安なままに業務していることも多い。さらに、デイケアの役割は再発防止から就労支援と多岐にわたり、各スタッフに期待されているものは大きいと感じます。研修委員会では、デイケアスタッフの基礎知識、技術から集団力動理解などの向上を目的として、研修会を企画しています。

第20回日本デイケア学会時の10月24日(土) 17:30か

ら同じ会場の大阪国際会議場で2つの研修会を企画しています。精神科デイケアの研修会では、神戸大学大学院保健学研究科教授(精神科医)の橋本健志先生に“『レジリエンス』を育む精神科デイケア”として話していただき、デイケアにおいて必要な医学基礎知識やスキルを参加者と共に考えたいと思います。多くの参加者を期待しています。高齢者デイケアの分野は未定ですが、決まり次第、ホームページ等でお知らせします。なお、研修会は学会とは別企画になり、学会申込みとは別に行い、2000円(会員)の参加費が要ります。(学会に参加できない方、しない方でも、研修会には参加できます。)

学会の後に、もうワンステップ上がってみませんか!

精神科デイケアの将来を考える

日本デイケア学会 副理事長・調査研究委員長 五十嵐良雄
メディカルケア虎ノ門

精神科を取り巻く医療や福祉の環境は急激に変化しており、精神科デイケアを取り巻く状況も大きく変わりつつある。

精神科病院では入院患者の高齢化と地域移行の動きに加えて、急性期治療へのシフトの影響が大きい。入院患者の地域移行が進むと、入院治療の継続としてのリハビリテーションである精神科デイケアや地域ケアの要である訪問看護はなくてはならぬものとなる。しかし、統合失調症の軽症化は短期治療をもたらしたばかりでなく、就労支援事業所の利用を加速しているようにもみえる。さらに、気分障害による休職者への復職支援のニーズの高まりから都市部の精神科病院では、サテライトクリニックを含めての精神科デイケアでリワークプログラムを行う施設が増加しつつ

ある。

一方、精神科診療所を取り巻く状況を見ると、精神科デイケアや訪問看護、更には就労支援事業所や障害者就業・生活支援センターなどを併設した多機能型診療所が増え、精神科診療所の発展形として位置づけられるようになってきた。診療所のデイケア機能としても、先にあげた気分障害のリワーク、発達障害や依存症などの疾患性に着目したリハビリテーションを実施するデイケアが増加している。しかし、これまでの精神科診療所の歴史をみると、院長一人での開業が出发点であるとともに基本であり、そのことは今後も変わらないと考えられる。なぜなら、それなりの修練を積んだ精神科医が、自らの得意分野をもって開業した

わけであり、問診や観察による見立てを大事にする精神科の特性を考えれば、院長一人での診療がむしろ自然である。

これらをもう少し広い視野でみて精神科医療の構造変化としてとらえると、日本の少子高齢化や精神疾患の軽症化が基底にあり、今後も精神科病院の病床利用率は低下し続けていくと思われる。それに伴い病院のスリム化は避け通れない道筋となる。病床利用率の低下と施設の基準維持が将来的に困難であると判断し、経営的判断として病院を解体し複数の多機能型精神科診療所へと生まれ変わった精神科病院もあり、成果を上げている。時代や社会からの外力が病床削減をもたらす結果として、病院の経営する多機能型サテライトクリニックも今後は確実に増えてくると容易に予想できる。

入院中心の治療から外来治療や地域ケアへの精神科医療・福祉のパラダイムシフトがおこると、専門外来や精神科リハビリテーション、地域ケアなどを担う精神科診療所は精神科医療・福祉において相対的に地位を上げていくことになるだろう。その結果、精神科診療所はこれまでの診療中心の一人医師の診療所と多機能統合型診療所へと2極化していくのではないかと想像できる。2極化は、診療所の機能の分化とも読める。機能が分化すれば、当然のことであるが医療機関の間での連携が重要となる。機能分化と連携がうまく連動すれば、より高いレベルの医療が地域で提供されることになる。ただし、医療機関相互の連携

を緊密に行うためには、紹介料などの診療報酬上での強力なインセンティブが必須であり、今後の診療報酬改定のポイントとしていくべきと考える。

一方、障害者の枠組みで行われる障害者福祉施策は、形式的には3障害の障壁が取り除かれた。障害性を問わない就労支援事業所が全国で活発に活動を始め、リハビリ理論の追い風もあり、また、ビジネスモデルとしての全国展開する就労支援事業所が急増している。現実的に精神科デイケアの利用者が就労支援事業所に吸収されるような事態さえおこっている。しかし、精神科病院や多機能型診療所では精神科デイケアと就労支援事業所など医療と福祉をうまく統合させているところもあり、今後の医療と福祉を展開するうえで大事な示唆であろう。

このような状況を見ると、精神科デイケアの機能分化の面から今後の精神科デイケアの位置づけを考えることは、今後の精神科医療・保健・福祉を進めて行くうえで重要かつ必要不可欠な政策的視点である。そのための基礎資料として精神科デイケアの現状でのエビデンスのある活動実態を把握し、その機能を整理することを通じて将来構想を作成していく時期にあると考えている。そのような視点に立った大規模な調査を当学会が中心となって実施していくことを計画しており、会員の皆様には多大なるご負担をおかけすることになるが、その重要さをご理解いただき協力をお願いする次第である。

組織委員会の主要な取り組み課題

日本デイケア学会 副理事長・組織委員長 古屋 龍太
日本社会事業大学大学院

新しい理事会のもと、新しい組織委員会が動き始めました。組織委員会の役割としては、会員拡大による組織基盤の整備がありますが、現在の主要な取り組み課題は以下の三つです。

一つ目は、「会則の改正」に関わることです。現行会則では第9条で「理事長、副理事長、理事、監事は評議員会において互選され、総会の承認を得て任命される」とされています。このままでは、本来中立的立場で会務や会計

を監査する監事が、執行部である評議員から選出されることとなります。このため、「第10条 監事は会員の中から評議員会において選出され、総会の承認を得て任命される。」を新設（以下、条文繰り下げ）することを、次回総会に提案させて頂く予定です。

二つ目は、「全国の地方組織調査」についてです。本学会は設立当初より、全国の地方組織（都道府県ごとの研究協議会・連絡会など）との連携を密にして、各地の声を集約する学会として機能することを目的の一つに掲げていました。そのため、学会設立時には全国の地方組織に協力を求めて現況調査を行っています。しかし、その後同様の調査は行われておらず、全国の様子が把握できていないのが実情です。最近では、各地の地方組織がややマンネリ化し活動が沈滞気味との声も聞かれます。このため、新理事会の方々にもご協力をお願いし、改めて全国の地方組織の現状を把握する調査を行うこととしました。今後、各都道府県・政令市でデイケアに関わる地方組織を運営している皆

さまに、アンケート調査票などをお届けすることになりますが、その節はご協力のほどお願い致します。

三つ目は、「施設基準に関わる調査」です。精神科デイケアの施設基準については、学会設立当初から今日に至るまで、各地から様々な課題が提起されてきました。その多くは、デイケアの実施時間や専用空間、人員配置に関わる監査の際に、施設基準の解釈が地方厚生局によりまちまちではないかとの指摘です。これらについては、これまでも学会として議論をした上で厚生労働省に疑義解釈を行い、回答を共有しているものもあります。今回は、改めて各地の会員から監査での指摘事項などを挙げて頂き、それらを集約した上で施設基準の解釈について学会として検討し、対応を協議しようとするものです。今後、調査の実施方法等を理事会で慎重に検討して参りますが、会員のお手元にアンケート調査票など届いた際には、ご協力のほどよろしくお願い致します。

編集委員長の抱負

日本デイケア学会 編集委員長 西村 良二
福岡大学医学部総合医学研究センター

デイケアの臨床の経験は私たちにとって宝物であることは言うまでもありません。そして、それらの体験を文章化するというのは大変な精神的作業ではありますが、この作業を通して、私たちの中に豊かな臨床力が生まれ、私たちは患者さんに本当に向かい合える医療人になることができるのだと思います。精神科の臨床は5、6年もするとスランプがやってくるように思います。経験を積むと、難しいケースをまかされることも1つの理由ですが、なかなか担当の患者さんが治らなくなります。そして、精神科の臨床がただの繰り返しに思えて、つまらなくなり、マンネリ化しやすいのです。私は折に触れて、これからの若いスタッフに話していることがあります。それは、臨床をいつも新鮮に楽

しみにし、続けていくために必要なコツの話です。コツは、日頃の私たちの臨床経験を研究することです。調査し、報告することです。私たちの臨床活動においては、一人の患者さんの治療も長期間にわたりますし、その間、曖昧さに耐える力が医療スタッフには求められます。臨床ではわりきれないことが多く、それがスタッフのストレスになりがちです。そこで、わりきれる、はっきりとした統計学的有意差とか数字の世界とかをしばしの間、遊び戯れることが必要となるのです。症例報告でもよいでしょう。臨床と違って、論理で進めていけば裏切られることのない世界をしばし遊泳し、学会で発表したり、学会誌に投稿したりすることで。論文が掲載される頃には、また、あの初々しい臨床へ

のエネルギーが湧いてくるのです。新鮮な気持ちで患者さんに向かうことが出来ます。そして、さらに臨床力がアップすることにつながるのです。論理的にもの考える力を養成することにもなります。自分の臨床を客観視できますし、全国のデイケアに携わっている仲間とコミュニケーションできます。自己確認できます。独りよがりの医療人にならなくてすむのです。

臨床の経験を書き留めておくことは私たちの臨床力を向上させるために極めて重要です。症例報告も研究のアイデアを思いついたり、個々の患者さんへのアプローチのセンスを磨きあげたりするのに役立ちます。症例報告をして、たとえば、それを10年後に読むと、また、新しい発想が生

まれたりします。昔、自分がまとめた症例報告の論文が今の自分を支えてくれることさえあります。それも、原稿にしているからこそ、学会誌に掲載しているからこそ、できるのです。皆さんも症例や臨床経験を原稿にする習慣をぜひ身につけてください。必ず、将来の皆さんを助けてくれると思います。自分の言いたいことを明確にするのは大変な労力が要りますが、私たち、編集委員、査読委員が会員の皆様の応援をしたいと思っています。多くの論文の投稿をお待ちしています。なお、年次学術集会での優秀な発表には、投稿のお声かけをさせていただいていますので、よろしくお願ひします。

広報委員長の抱負

日本デイケア学会 広報委員長 林 みづ穂
仙台市精神保健福祉総合センター

このほど、広報委員長を拝命致しました。これまでに従事なさった諸先生方の活動を引き継ぎつつ、より皆様に身近で役立つ広報となるよう、微力ながら務めて参る所存です。

今期の広報委員会は、松永宏子(社会福祉法人サンワーク、関東地区)、肥田裕久(医療法人社団宙委会ひだクリニック、関東地区)、友國由美子(姫路獨協大学、中国・四国地区)、林みづ穂(仙台市精神保健福祉総合センター、北海道・東北地区)の4名で構成されています。

本委員会では、ニュースレターの発行を中心に、学会の情報やデイケアに関するさまざまな内容を広報しております。このニュースレターは、年に2回発行し、学会員や関係機関の皆様へお送りする他に、バックナンバーを学会ホームページにも掲載しています。近年の内容としては、主に、年次大会に関する御案内・開催記・参加記や、全国各地のデイケア施設・活動紹介、各委員会の活動報告、学会入会案内などについて、取り上げて参りました。

用紙の色まで委員会で季節その他に合わせて決めてい

るニュースレターは、空き時間などに気軽に開いて読んでいただける媒体ではないかと考えております。デイケアの対象者、機能、規模、スタッフの職種などが非常に多岐に渡り、地域性や施設ならではの独自性なども含む、多種多様な活動がなされている今こそ、所属施設で行っているデイケア活動のみならず、年次大会や他施設の状況などにも視点を広げて行くことが、より重要になってくるのではないかと考えられます。ニュースレターを開くひとときがその一助となれるように、メッセージ性のある記事や情報を掲載して行きたいと考えております。

また、今期は、少しでも会員を増やすことが出来るよう、記事内容の充実とともに、ニュースレター送付先の見直しなどをも行う予定です。

皆様と学会を身近につなぐニュースレターを、皆様とともに、より良いものにして参ります。御意見、御要望、御感想などがございましたら、どうぞお寄せいただければ幸いです。よろしくお願ひ致します。

日本デイケア学会役員

理事長：原 敬造

副理事長：五十嵐良雄、古屋龍太

理事：池淵恵美、内野俊郎、大丸 幸、小田良光、窪田 彰、熊倉徹雄、栗原 毅、坂井一也、佐々木裕光、関 健、高尾由美子、友國由美子、中野英子、西村良二、林みづ穂、肥田裕久、藤田さより、松永宏子、三家英明、四本かやの、渡辺克徳、渡邊文宏

監事：浅野弘毅、竹中秀彦

事務局長：小野寺敦志

評議員：(地区別、五十音順)

北海道・東北地区●熊倉徹雄 (DR)、中野英子 (PSW)、林みづ穂 (DR)、原 敬造 (DR)

関東地区●五十嵐良雄 (DR)、池淵恵美 (DR)、窪田 彰 (DR)、栗原 毅 (心理)、肥田裕久 (DR)、古屋龍太 (PSW)、松永宏子 (PSW)

中部地区●坂井一也 (OT)、藤田さより (OT)

北陸・信越地区●小田良光 (PSW)、渡邊文宏 (NS)

近畿地区●三家英明 (DR)、四本かやの (OT)

中国・四国地区●友國由美子 (OT)、渡辺克徳 (心理)

九州地区●内野俊郎 (DR)、佐々木裕光 (DR)、西村良二 (DR)

高齢者全国区●大丸 幸 (OT)、関 健 (DR)、高尾由美子 (PSW)

(任期：平成 29 年度総会まで)

委員会 (会則第 13 条により、理事長が理事会に諮り設けられた委員会)

組織委員会：古屋龍太 (委員長)、内野俊郎、大丸 幸、小田良光、渡邊文宏

広報委員会：林みづ穂 (委員長)、友國由美子、肥田裕久、松永宏子

研修委員会：坂井一也 (委員長)、池淵恵美、栗原 毅、関 健

編集委員会：西村良二 (委員長)、稲毛義憲、大沼幸子、荻澤健志、小野寺敦志、熊倉徹雄、齋藤敏靖、高尾由美子、中野英子、四本かやの

査読委員：浅野弘毅、岩下 覚、工藤神威、是恒正達、松永宏子

調査研究委員会：五十嵐良雄 (委員長)、窪田 彰、佐々木裕光、藤田さより、三家英明、渡辺克徳

(任期：平成 29 年度総会まで)

日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約1,000名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 下記入会申込書にご記入の上、FAX か郵送で下記事務局までお送りください。

2. 入会金および年会費

正 会 員：入会金 1,000円 + 年会費 8,000円

団体会員：3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円(登録者名の変更は適宜可能)

(3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください)

振 込 先：郵便振替 名称：日本デイケア学会 口座番号：00170-8-167337

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F (有)エム・シー・ミュージズ内

日本デイケア学会事務局

TEL & FAX : 03-3813-6368

E-mail : info@daycare.gr.jp URL : http://www.daycare.gr.jp

----- キリトリ線 (ご記入いただき、郵送あるいは FAX で事務局までお送り下さい。) -----

入会申込書

(正会員用)

申込日 平成 年 月 日

氏名		性別	男・女	生年月日	T・S H	年 月 日
----	--	----	-----	------	----------	-------

職種		所属先名称 (勤務先)	
----	--	----------------	--

所属先所在地	〒	電話番号	()
--------	---	------	-----

(団体会員用)

団体名		代表者	
-----	--	-----	--

所在地	〒		
-----	---	--	--

種別	TEL	()	FAX	()
----	-----	-----	-----	-----

会員登録(計 名) ※会員登録される方を下記に記して下さい。

氏名	フリガナ	氏名	フリガナ
氏名	フリガナ	氏名	フリガナ